

# LIBRARY NAVIGATOR

Library Navigator (図書館だより) は、立命館大学図書館と利用者のみなさんをつなぐため、1974年から発行している逐次刊行物です。第126号より、オンラインに移行して発行します。

ISSN 1345-3344

VOL. 135  
2026

立命館大学 図書館だより / ライブラリーナビゲーター



ご挨拶

図書館副館長からのメッセージ

伊藤 隆基

立命館大学図書館副館長 理工学部教授

図書館の使い方がうまいヒト

下ノ村 和弘 理工学部教授

連載企画

社会が求めるものを創り出す

プロセスから導かれた金言

- ・データベースの活用と図書館の「ぶらぶら歩き」
- ・「答えがない問題」に取り組む準備を
- ・結論に至る思考のプロセスを大切にすること

こうした姿勢で得られた情報の結合が創造性につながり、新たなイノベーションへとつながる。

特集

2025年度図書館利用実態アンケート結果報告

図書館からの  
お知らせ

2026年3月からの  
RUNNERS OPAC新機能紹介

## 図書館副館長からのメッセージ

伊藤 隆基

立命館大学図書館副館長 理工学部教授



### Profile

伊藤 隆基 / 立命館大学図書館副館長 理工学部教授

2018年4月から2020年3月まで理工学部副学部長を、2020年4月から2024年3月まで国際部副部長を務める。研究分野は「機械構造材料の強度評価」。高温機器等で用いられる耐熱・耐腐食合金、航空機で使用される軽量・高強度合金や超合金、電子デバイス用の低融点合金など、各種幅広い機械材料を対象に、材料強度試験、とくに多軸負荷や高温での疲労試験を多数行っている。材料の変形・破壊特性を実験的に把握し、さらに試験結果の観察と分析・評価、数値解析等を駆使して、材料の強度特性の解明と強度評価手法の開発を進めている。

新学期によろこそ。

多様な使い方ができる図書館内だけでなく、

あらゆる場所で大学の知的リソースを活用してほしい。

新入生の皆さんは希望に満ちた大学生活を過ごされること、そして在学生の皆さんは日々の学びと挑戦に取り組んでおられることと思います。大学では、教養や専門知識を吸収するだけでなく、様々な経験を通して自らの力で成長することが大切です。その中で、図書館は、書籍や学術雑誌の蔵書ならびに電子資料、さらにデータベースを豊富に揃え、進化しながらもいつの時代でも皆さんの知識と成長を支える知の拠点として存在してきました。

さて、私にとっての大学図書館は、どのようなものだったでしょうか。昔を振り返ってみると、教員らしからぬ元々読書の習慣があまりなかったので図書館に通うことはほとんどありませんでした。卒業論文で研究に携わるようになったのをきっかけに、国内外の学術雑誌・論文をコピーするために必要に迫られて図書館の書庫に足を運ぶようになりました。30年以上も前の書庫といえば、窓もない地下室などに設置され、移動式ラックに雑誌等がぎっしりと無機質に収められていて、まるでドラマで見る警察署の保管室のようでした。通常でない静けさや独特な匂いもあって、居心地は決して良いものではありませんでした。にもかかわらず、たまたま見つけた古い地図に興味を持ち、それからは地図を探し出してはそれを見て（地図を読んで）、その地域の歴史を感じながら時折長居をしたことがありました。

私の中で、大学図書館のイメージが大きく変わったのは、研究員としてイリノイ州立大学に1年間滞在した時でした。同大学は、大きな図書館を数館有していて、私の研究室があった建屋の横にも迎賓館のような図書館が鎮座していました。その図書館は、卒業生から寄贈されたものであり、現在の衣笠キャンパスにある平井嘉一郎記念図書館のような素晴らしい環境で、そこでは図書の利用のみならず、デスクワーク、休息、そして集いの場としても様々な利用形態に対応していて、1990年代の当時としては斬新な施設でした。私の個人研究室が教職員オフィスとしては一般的な仕様ではあったもののコンクリートブロックの壁がまるで独房に居るような気分でしたので、快適な図書館で過ごすことが多かったことを思い出します。

冒頭でも記したように、図書館は時代とともに変化し、また地域や国によっても様々です。とくに電子ジャーナルの導入が加速されるようになってからは、図書館で欲しい情報は研究室や自宅のみならず、何処にいても入手できる環境になっています。それによって、私自身は立命館に着任してから12年間は図書館に行くことがほとんどなかったのですが、副館長の役職に就いてからはちょっとだけ足を運ぶようになりました。

本学図書館は、今やかなり様変わりをして、開架図書のみならず、快適なデスク空間、ラーニングスペース、ネット環境があり、大きな魅力を備えています。各学生さんの利用方法は色々あるかと思いますが、まずは図書館に通い、ルールやマナーは守りつつも自分のスタイルにあった利用法を見つけてください。

スタッフ一同、知の拠点とともに利用者のニーズにあったサービスを提供いたします。そのためにも、学生の皆さんのご意見やご協力を期待しています。



## 社会が求めるものを創り出すプロセスから導かれた金言

- ・データベースの活用と図書館の「ぶらぶら歩き」
- ・「答えがない問題」に取り組む準備を
- ・結論に至る思考のプロセスを大切にすること

こうした姿勢で得られた情報の結合が創造性につながり、新たなイノベーションへとつながる。

理工学部教授 下ノ村 和弘

社会ニーズに応える新たなロボットの開発をどのように進めているのか。

今回は理工学部教授・下ノ村和弘先生に、先生の研究内容と研究を進めていく中で必要となる情報の集め方や、情報を探す際の図書館の有効な利用方法などについてお聞きしました。

### 下ノ村先生の研究分野と研究対象

私は、理工学部のロボティクス学科に所属していますので、広く言えばロボット工学が専門となります。ただ、ロボット工学の中にも様々な要素がありまして、私が集中して取り組んでいる分野は、ロボットのセンシング技術になります。具体的にはロボットの視覚や触覚となるセンサーです。

ロボットが動くためには外部の情報を取り込む必要があります。何の目的のロボットかによって、センサーの種類や

センサーを取り付ける位置、計測範囲を変える必要があります。適切なセンサーを選択したり、必要に応じて新しいセンサーを開発したりしています。ロボットのためのセンシング技術が私の主な研究対象です。また、開発したセンサーを、ドローンのような移動ロボットやマニピュレータに応用する研究にも取り組んでいます。

### 具体的な研究内容

私の研究は視覚センサーからスタートしたのですが、視覚センサーの場合、カメラが入力デバイスとなります。カメラ自体は身近なもので、スマートフォンに使用されているような一般的なカメラも使用するのですが、単に画像を撮影しただけでは画像データがあるだけで、ロボットが目的の仕事をするために必要な情報を知ることはできません。撮影した画像から必要な情報を抽出しデジタル情報としてロボットに提供で

きるようにすることが重要です。ロボットの目的の仕事によって必要な情報は異なりますので、それに応じた特殊なカメラ、例えば、距離が測れるカメラやサーモカメラのような不可視光を撮影するカメラ、速い現象をとらえる超高速カメラなどを使うこともあります。

そして、ロボットが何か作業をするときはたいていの場合、何かしらのものに触れることとなります。この際に触覚セン

サーが必要となります。例えば、ネジを締める作業をロボットにさせる場合、ネジの向きや持つ位置を正しく認識しなければ締めることができません。正しく掴むために必要なのが触覚センサーとなります。触覚情報を取り込むセンサーの原理は色々なものがあり、例えば、薄い板状の配線が曲がることによる電気抵抗の変化をとらえる方法などがありますが、私が取り組んでいるのはカメラによる画像データをもとにした触覚センサーの研究・開発です。一般的ではないのですが、私が視覚センサーを中心に取り組んできたこともあり、画像により接触した物の位置や形の変化を読み取りそれをロボットの制御に応用する研究を進めています。



画像センサーを取り付けた機器を調整されている下ノ村先生

### 先生の研究の進め方

私の研究の多くはニーズからスタートします。企業の方から相談いただく中でニーズが明らかとなることもありますし、自身で今問題となっていることなどを調べて今後求められるであろうことを考えたときに潜在的なニーズを思いつくこともあります。ここにこういうロボットがあると便利なのではないか、ということがスタートになっています。そのロボットが、どのような外部情報を受け取ればロボット自体で判断して動いてくれるのか、を考えていく中で、どこにどのようなセンサーが必要になってくるかが明らかになってくるので、それらのセンサーから必要な情報を取り出すために色々とり合わせていくことになります。最終的に必要な情報が取得できるものを作っていくのですが、理論的に考えて進められる部分もあれば試行錯誤的に進めていくところもあります。

研究を進める中でのニーズがどこにあるかのヒントや、ニーズを実現するための技術情報などは、図書館のリソースを使っています。ニーズ自体の掘り起こしの際も、また解決策を考える際も、自分で考えるための材料として『入力』は、非常に大事にしています。『入力』のためには、様々な人から話を聞いたり、多くの資料や論文が材料となるわけで

すが、論文や資料を探す際には図書館のリソースを積極的に活用しています。立命館大学ではデータベースが充実していますので、図書館に出向かずとも自身のオフィスで論文などの資料から情報が得られるのは非常に便利です。



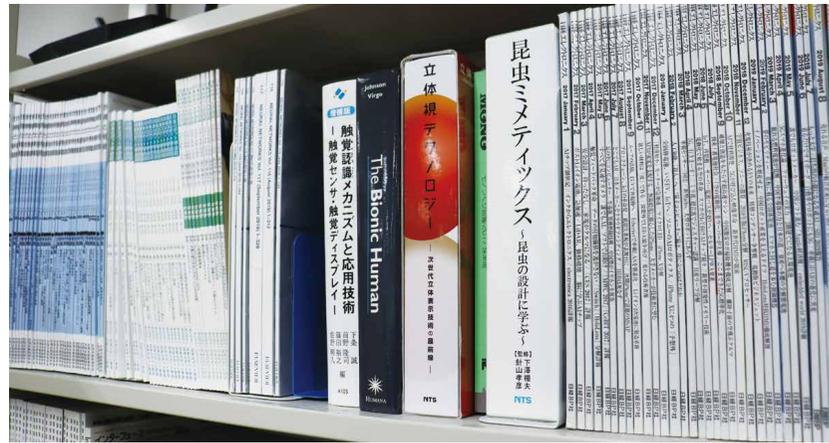
触覚センサーを組み込んだロボットアーム

## 研究以外での図書館の利用法

論文のデータベース以外でも、日経雑誌のデータベース、日経BPはよく利用しています。日経の専門誌などが電子版で見られるのは非常に重宝しています。中でも「Nikkei robotics」はよく記事を読んでいます。日経の雑誌は、最新技術の解説的な記事も多くて、現在の動向やトレンド、今後の予測といったことを考える参考になります。論文とは違った観点から有益な情報を提供してくれます。

最近では忙しくてあまり図書館などに行けてないのですが、もともと図書館や本を読むことは割と好きで、時間があ

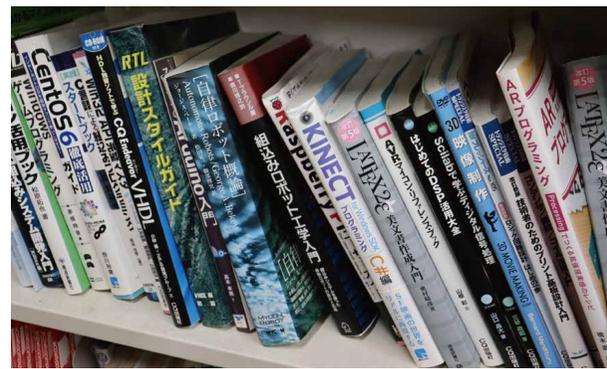
るときは特に目的の本などを決めずに図書館に行って、ぶらぶらとしながら面白そうな本を探すということが好きでやっています。本屋とかもそうですが、文庫本のコーナーなどは出版社ごとには分けられて色々なジャンルの本が混ざり合っていて並んでいますので、背表紙のタイトルを眺めて面白そうな本を手にとって読んでみることは結構好きでやっています。もちろん、この本を、と決めて読むこともありますが、偶然見つけて何となく面白そうと思って手に取った本は、視野を広げてくれたりするので好きです。



研究の参考となる書籍や雑誌のバックナンバー

## 本を読むことで得られること

学生の皆さんには本をたくさん読んで欲しいと思っています。たくさんというのは、自分の専門分野や好きな分野以外の本も読んで欲しいという意味なのですが、これは、自身の視野が広がり『入力』の種類が増えることにつながります。ロボティクス分野で、何かニーズに対してこんなロボットを作ろうと考えるとき、創造性みたいなものが大事だと思うのですが、この創造性というのが何かというと、何も無いところから新しいものがポンっと出てくるイメージを持つ方も多いかもしれませんが、昨年のお薦め本でもいくつか挙げたのですが、ロボットの著名な研究者の方も、「創



画像センサーや触覚センサーから取り込んだ情報を処理するための各種参考書籍

造性とは様々な情報の統合である」というような言い方をされています。私も、そのように思っていて、新しいものを作ったなと思って結局は自身が持っている情報や経験の組み合わせであったりします。スティーブ・ジョブズさんの有名なスピーチのコネクティングザドッツ(connecting the dots)と通じるものがあるかと思います。図書館で色々な本を読んでみるというのは、必ずしも今すぐ役に立つ、というとは違うこともありますが、興味をもってインプットした情報は、そのうち自身の経験などと結びついて、何か新しいアイデアとしてポンっと出てくるということにつながるとしています。

一方で、本を読むことは結論だけが書かれているわけではありませんので、時間がかかることで、面倒に感じる人も多いかもしれません。ですが、大学での学習や研究のよう

## 充実した大学生活を送るために

大学入試の問題というのは、基本的に解のある問題を解きますし、高校までの学習はこうした訓練を中心に行われてきて、多くの新入生の方は答えがある問題を解くことに慣れていていると思います。しかし、大学で扱う課題では、唯一の正解は無く、解決に向けてどうすればよいか自分なりの考えをまとめていく、そしてそれを他人に説明する、ということが増えていきます。そうしたときに、様々な視点から考えて一番良さそうなものを選んで自分で判断して試してみる、ということになります。本当にうまくいか、やってみないとわからないということもあります。実際の社会における問題も多く場合はそうであり、こうしたやり方に慣れてほしいと思います。そのための方法といいますが、準備として有効なものの一つは、様々なことに興味をもって、多くのことを自分自身にインプットすることになります。

読書も知識のインプットの一つの方法ですが、様々な経験もインプットです。大学には授業や授業以外の多様な

に、必ずしも唯一の正解があるわけではない課題に取り組んでいくうえでは、結論だけが大事なわけではありません。結論に至るまでの考えの過程や結論に至った根拠というものも大事で、本を1冊読むということは、著者のテーマに対する考え方などが順をおって丁寧に書かれており、それを追いながら、自身の考えと対比してじっくり整理してみると、非常に良い時間の使い方だと思います。生成AIは非常に多くの情報の中から必要な情報を瞬時に提示してくれます。短時間で効率よく整理された情報を得るには便利なツールですが、本を読んで自分のペースで内容を噛み砕き消化しながら頭の中で情報を整理していくのも、自分自身に考える力をつける上で重要なトレーニングではないかと思うのです。

課外の活動の機会がありますので、自身が楽しいと思えることを見つけて真剣に取り組んでみて、たくさんのインプットをしてほしいと思っています。



ロボットに必要な部品を作成するための3Dプリンター

# 2025年度 図書館利用実態 アンケート結果報告

たくさんのご協力をありがとうございました。  
アンケート結果および自由記述コメントに対する  
図書館の取り組みにつきまして、以下にご報告します。



対象者：全学部学生、全大学院学生（約40,000人）

実施期間：2025年6月13日～7月4日

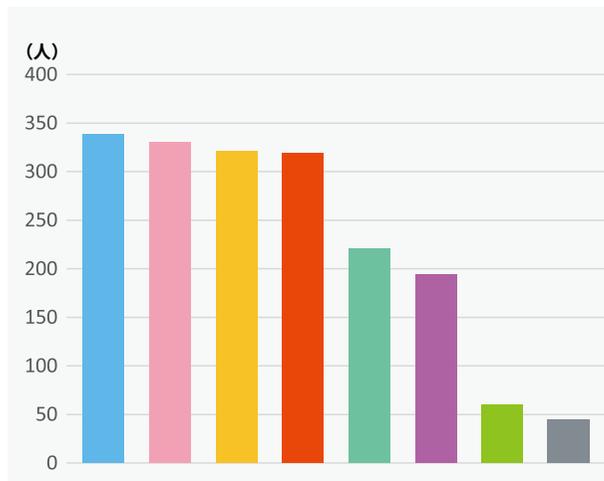
回答者数：641名

キャンパス別回答者数：衣笠340名、BKC121名、OIC163名、朱雀17名

## Part1 DATA編

アンケート13項目のうち、図書館の利用に関する項目を一部抜粋して報告します。

### Q 01 図書館を利用する目的は？（複数回答）



資料活用	338人	52.7%
情報収集	330人	51.5%
試験準備	321人	50.1%
研究・予復習	319人	49.8%
休憩・リラックス	221人	34.5%
読書	194人	30.3%
ディスカッション・ミーティング	60人	9.4%
その他	44人	6.9%

#### コメント

図書館の利用目的は資料活用、情報収集、試験準備、研究・予復習、休憩・リラックス、読書、ディスカッション・ミーティングの順となりました。それぞれの利用者が日々の学部・研究科での学びを深めるために利用していることがわかります。

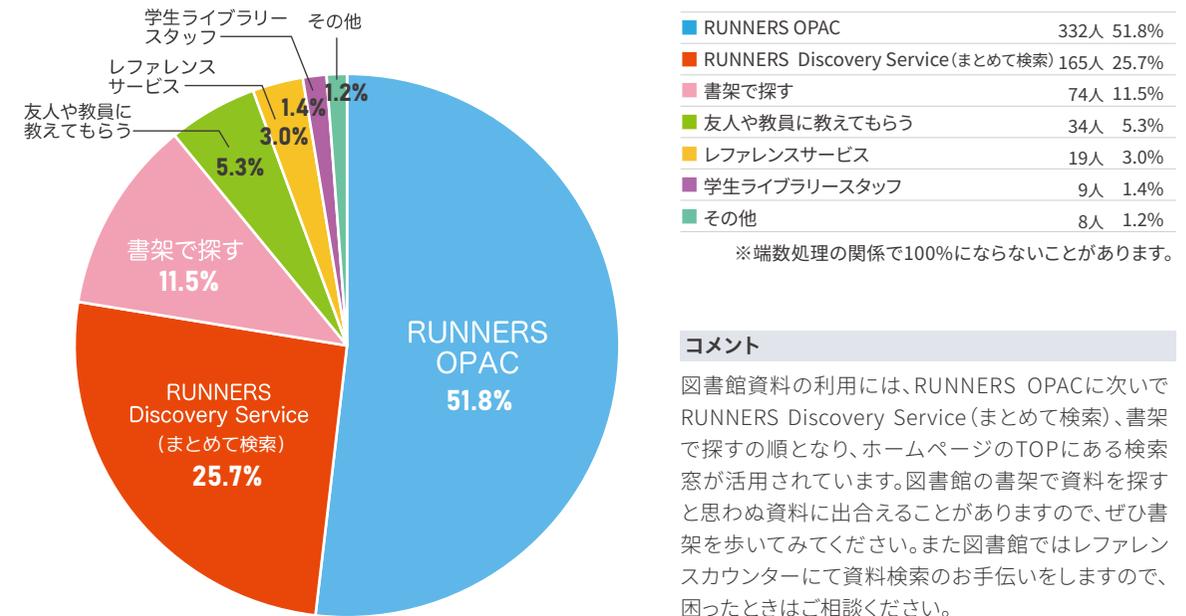
### Q 02 それぞれの図書資料をどこで利用しているか教えてください（複数回答）

利用場所 上段：数値 下段：比率	通学途中	自宅・下宿	図書館内 閲覧室	びあ	教室・研究室	【学部棟の】 commons等	使わない	合計
図書資料 （紙媒体）	62 9.7%	220 34.3%	252 39.3%	13 2.0%	34 5.3%	4 0.6%	56 8.7%	641 100%
雑誌 （紙媒体）	6 0.9%	35 5.5%	202 31.5%	10 1.6%	15 2.3%	3 0.5%	370 57.7%	641 100%
e-book	11 1.7%	128 20.0%	39 6.1%	10 1.6%	31 4.8%	8 1.2%	414 64.6%	641 100%
e-journal	8 1.2%	113 17.6%	37 5.8%	11 1.7%	38 5.9%	14 2.2%	420 65.5%	641 100%
データベース	19 3.0%	199 31.0%	75 11.7%	12 1.9%	98 15.3%	9 1.4%	229 35.7%	641 100%

#### コメント

紙媒体の図書や雑誌は図書館内を中心に利用され、図書資料は貸出 процедуруして館外でも利用されています。一方、電子資料であるe-book、e-journal、データベースは自宅・下宿で利用されています。

### Q 03 図書館資料を利用する際に最も役立つツールおよびサービスを教えてください（択一）



※端数処理の関係で100%にならないことがあります。

#### コメント

図書館資料の利用には、RUNNERS OPACに次いでRUNNERS Discovery Service (まとめて検索)、書架で探すの順となり、ホームページのTOPにある検索窓が活用されています。図書館の書架で資料を探すと、ぜひ書架を歩いてみてください。また図書館ではレファレンスカウンターにて資料検索のお手伝いをしますので、困ったときはご相談ください。

## Part2 自由記述欄編 アンケートの自由記述欄に寄せられた意見について

アンケートの自由記述欄に寄せられた意見について 図書館利用実態アンケートでは、自由記述欄にも多くの方からご意見をいただきました。記入延べ総数302件の内訳は、図書館サービスについて(197件)、図書館の収書や蔵書等について(83件)、図書館には直接関係しない記述や感想など(22件)となっていました。今回、多くの方からの関心が集まったものを中心に、図書館の取り組みや考え方についてご紹介します。

### 01 開館時間を延長してほしい。

試験期間前や試験期間中、土曜日、日曜日、祝日の開館時間延長を希望する声をいただきました。

現在、平井嘉一郎記念図書館(衣笠)、メディアセンター・メディアライブラリー(BKC)、OICライブラリーの開講期間の開館時間は、平日・祝日授業日・定期試験日は午前8時30分～午後10時、土曜日・日曜日・祝日は午前10時～午後5時を基本としています。

これは他大学の開館状況と同等程度となっています。立命館大学図書館は、資料活用、情報収集など利用者の学術資料へのアクセス機会を可能な限り増やすため、年間の開館日数と授業日の開館時間を可能な限り増やす方針のもと、学事日程、蔵書の整理、施設設備の点検や工事の必要性等を踏まえて開館スケジュールを決定しています。

### 02 資料を増やしてほしい。

文学作品、小説、ライトノベル、漫画、電子資料などいろいろな資料を希望する声をいただきました。

立命館大学図書館は、主に大学の学部学生・大学院学生および教職員の教育、研究ならびに学習に必要な学術資料を収集・整理・保存し、利用者へ提供しています。日々膨大な数の学術資料が世界中で出版されており、これら全てを網羅的に収集することは困難であることから、立命館大学図書館として学術資料を収集する際の基本的な考え方を定めた「図書館資料収集の基本方針と収書基準」\*に基づき、図書館の蔵書整備に努めています。また、近年では、電子出版される学術資料の増加傾向も顕著であり、電子書籍や電子ジャーナルについても積極的に収集しています。学術雑誌、データベース等については、教員の協力も得て専門的な視点から資料を選定しています。図書館で所蔵してほしい資料があれば、MyLibrary\*の「利用者サービス」メニューの「図書購入申込(学習用)」から申込みことができます。ただし、上記の収書基準では漫画やフィクション単行書(小説)などは収集しないとしているため、希望に沿えないことがあります。

図書館には、自大学の教育や研究に必要な学術資料を専ら収集する大学図書館のほか、自治体等が運営する社会教育を目的とした公共図書館、漫画・建築・文化といった専門的な分野の資料を収集している専門図書館など、様々な種類の図書館があります。多くの図書館ではオンライン蔵書検索(OPAC)を公開しています。目的に応じて図書館を使い分けて利用してください。

\*「図書館資料収集の基本方針と収書基準」(<https://www.ritsumeai.ac.jp/lib/f03/020/>)

\*MyLibrary([https://runners.ritsumeai.ac.jp/opac/opac\\_search/?loginMode=disp&lang=0](https://runners.ritsumeai.ac.jp/opac/opac_search/?loginMode=disp&lang=0))

### 03 より快適な施設、環境にしてほしい。

ぴあらの座席数の増加や椅子の改善など、施設・設備に関する改善の声をいただきました。

図書館では、学習環境や学術資料の変化、または技術革新等に対応して、継続的に情報・ネットワーク機器の更新や機能の拡充を行っています。一方で、開設から30年以上が経過しているBKCのメディアセンター、メディアライブラリーでは、施設環境の改善を求める多くの声を参考に机・椅子等の什器の入れ替え、カーペットの張り替え、閲覧席への電源コンセント増設等を随時進めています。これら以外にも、図書館では計画的に館内の椅子の洗浄を行うなど、より快適な環境の構築に努めています。

### 04 空調を改善してほしい。

「暑すぎる」「寒すぎる」など、空調の改善を希望する声をいただきました。

図書館では、他の施設と同様、キャンパス全体の空調運転スケジュールに沿って、全館の冷暖房温度の設定、空調管理を行っています。また、通常は冷暖房運転を行わない時期にも、外気温の影響により館内の温度が適温ではないと判断される場合には、臨時で冷暖房運転を行っています。加えて、これまでのアンケートでのご指摘にお応えし、遮光パネルや遮熱フィルムの設置や設定温度の変更、開館前の空調運転などの工夫も行っています。閲覧室などの大きな空間では、同じ室内でも吹き出し口からの距離や向き、日差しの状態、館内の混雑状況によって温度差が生じやすく、人によっても感じ方が違う場合も見受けられますので、席を移動して環境を変えてみるなどの工夫をお願いいたします。そのうえでなお解消されない場合には、各図書館サービスカウンターにお申し出ください。

### 05 食事をとれるようにしてほしい。

「食事を許可してほしい」「食事をとれる場所を設けてほしい」などの声をいただきました。

図書館の資料は大学の財産であり共有物です。図書館内での食事は、図書資料の汚損や害虫発生の原因になる可能性があり、大切な財産を毀損する可能性があります。また、匂いが他の利用者の迷惑となるなど、様々な問題が起こりえます。食事の際は食堂等をご利用いただき、図書・資料や図書館施設の保全にご協力をお願いします。同様の理由で、館内では食事だけでなく、ガムやグミ、飴、タブレットといった菓子類を口に運ぶことを禁止していますので、ご協力をお願いします。

### 06 館内では静かにしてほしい。

「静かな閲覧室での会話が迷惑です」などの声をいただきました。

図書館スタッフや警備員などが定期的に巡回し、通話や会話をしている方がおられた場合は、通話が可能なエリアや発話可能な「ぴあら」への移動をお願いしています。図書館は立命館大学の全構成員が学習・研究目的で利用する共有の施設です。図書館では、利用者の皆さんが学習や研究に集中して取り組むことができるよう、「ぴあら」やセミナールーム以外では発話を制限しています。利用者の皆さん一人一人が意識しあい、静粛な環境をつくりあげることが重要です。そのうえで、利用者の誰かが、利用環境を悪化させているような場面に遭遇した場合には、図書館スタッフにお申し出いただくなど、静寂な利用環境の維持にご協力をお願いします。

図書館では、これからも様々な機会を通じて図書館サービスや蔵書、施設・設備等の改善に努めます。

# 2026年3月からの RUNNERS OPAC新機能紹介

2026年3月12日(木)に、図書館システムをリニューアルしました。新しく追加されたサービスをご利用いただき、みなさまの学習・研究に役立ててください。

図書館HPトップ画面



## RUNNERS OPAC (蔵書検索)とは？

キーワード(タイトルや著者名等)を入力して、本学が所蔵する資料の配架場所を検索することができるシステムです。図書館のホームページからアクセスできるほか、館内の各所にある情報検索用パソコンでも利用できます。[\(機能の詳細はこちら\)](#)



## MyLibraryとは？

インターネットからアクセスし、ブックマークや蔵書・検索ツールなどを整理しておけるページです。資料の予約、貸出期間の延長、学外への文献複写・貸借申込、図書を購入申込、施設予約なども行えます。



## 改善されたサービス

### 1. 認証機能

学生、教職員のみなさまは「MyLibrary」を利用する際の認証画面と認証フローが、Microsoft 365 認証システム(メールやOneDriveと同じ)に変更されます。今後はRAINBOW IDとパスワードではなく、ご自身のメールアドレスを入力してご利用ください。一般市民・校友のみなさまはMyLibrary専用ID・パスワードを入力してください。



OPAC端末



学生・教職員  
ログイン窓口

一般市民・校友  
ログイン窓口

※なお、図書館内に設置された「OPAC 端末」からMyLibraryにアクセスできるのは、「一般市民・校友」のみなさまとなります。学内の方はご自身のスマートフォンやパソコンからMyLibraryにアクセスをお願いします。

## 新しく追加されたサービス

### 1. 平井嘉一郎記念図書館1Fカンファレンスルーム、シアタールーム、控室の予約・空き状況の確認

これまで別システムで運用をしていた上記施設についても「Web施設予約」から申込みができます。なお、**教職員証をお持ちの方のみ予約・申込みが可能です。**利用できる日は開館日のみです(閉館日はご利用いただけません)。開館30分後から閉館30分前まで利用できます。その他、詳細は立命館大学図書館HP内「Web施設予約」のページをご確認ください。

### 2. 閉架書庫資料の取り寄せ

平井嘉一郎記念図書館、修学館リサーチライブラリー、人文系文献資料室、尚学館には職員のみ入室可能な書庫があります。本書庫の資料を利用したい場合は、RUNNERS OPACの「印刷」をクリックし、必要事項を記入した「出納申請」を受付場所にお持ちください。

### 2. 検索項目・名称の変更について



国際平和ミュージアム、各研究所の資料を  
所在別に検索できるようになりました。



「LL申込み」→「文献複写・  
貸借申込み」に変更しました。

※今回のリニューアルより「SNS連携機能」、「仮想書架」についてはサービスを終了します。

Library Navigatorは最新号・バックナンバーともに  
図書館ホームページでもご覧いただけます

立命館大学図書館だより — Library Navigator — Vol.135 2026年3月

発行: 立命館大学図書館 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
TEL:075-465-8217 FAX:075-465-8219 <https://www.ritsumei.ac.jp/lib/>

立命館大学 図書館だより

検索